

**学校教育自己診断の結果と分析** [令和7年12月実施]**【全体】**

・「本校に来て（行かせて）よかった」「本校の取組は将来に役立つ」と回答した生徒及び保護者がさらに増加しており、「本校の教職員は生徒・保護者の要望に応えるように努力している」と回答した教職員の割合は3年連続で100%に達している。また、「他の学校にない特色がある」「共生社会に向け努力している」と肯定的に回答した生徒、保護者、教職員の割合も、多少の増減はあるものの、依然として高い水準を維持しており、生徒や保護者の理解、教職員の手応えを感じとることができる。今後も、学校として生徒や保護者の期待に応えていくことができるよう、着実に取組を進めていきたい。

・「教職員が協力している」と回答した教職員の割合は増加したが、生徒及び保護者では減少しており、昨年と傾向が逆転した。一方、「学校は十分に説明している」と回答した教職員の割合は高い伸びを示しているが、保護者においては減少に転じた。しっかりと検証を行いながら、引き続き協力協働の体制づくりや説明責任に努めたい。

・「施設が整備されている」「地域とかかわる機会がある」と肯定的に回答した教職員の割合が大きく増加している。さらなる拡充を図りたい。

\* 「本校に来て（行かせて）よかった」 生徒 93.8% 《昨年 90.4%》 保護者 95.1% 《昨年 90.8%》

\* 「生徒・保護者の要望に応えるように努力している」 教職員 100% 《昨年 100%》

\* 「本校の取組は将来に役立つ」 生徒 94.1% 《昨年 92.6%》 保護者 93.4% 《昨年 91.6%》

\* 「他の学校にない特色がある」 生徒 97.9% 《昨年 98.3%》 教職員 100% 《昨年 100%》

\* 「共生社会に向け努力している」 生徒 97.6% 《昨年 93.5%》 教職員 96.7% 《昨年 97.0%》

\* 「教職員が協力している」 生徒 91.0% 《昨年 91.3%》 教職員 93.3% 《昨年 90.9%》

\* 「学校は十分に説明している」 保護者 85.4% 《昨年 88.4%》 教職員 96.7% 《昨年 81.8%》

\* 「施設が整備されている」 生徒 87.5% 《昨年 87.0%》 教職員 80.0% 《昨年 72.7%》

\* 「地域とかかわる機会がある」 保護者 81.2% 《昨年 82.0%》 教職員 93.3% 《昨年 87.9%》

**【授業】**

・「主体的な学習のための授業の工夫」「論理的に考え表現する力の育成」「他者と協働する力の育成」「探究する力の育成」「視聴覚機器やICTの活用」に関しては、項目ごとに増減はあるが、総じて肯定率が高く、授業実践の成果が窺える。ただし、「主体的な学習のための授業の工夫」「視聴覚機器やICTの活用」における教職員の肯定率が低下しており、授業づくりについて議論や研究を深める必要を感じる。これらの結果をフィードバックしながら、各授業のさらなる充実をめざしたい。

・「多様な選択科目が進路実現に役立っている」と肯定的に回答した保護者の割合が増加に転じた。

・「家庭学習に向けての工夫」については、生徒の肯定率は増加傾向にあるが、保護者は減少に転じ、教職員でも低下している。学力育成の重要な柱として課題認識を学校全体で共有し、学習習慣の確立を図りたい。

\* 「主体的な学習のための授業の工夫」 生徒 87.5% 《昨年 87.4%》 教職員 93.3% 《昨年 100%》

\* 「論理的に考え表現する力が伸びている」 生徒 90.6% 《昨年 88.1%》 教職員 80.0% 《昨年 83.9%》

\* 「他者と協働する力が伸びている」 生徒 91.2% 《昨年 91.5%》 教職員 90.0% 《昨年 90.3%》

\* 「探究する力が伸びている」 生徒 94.1% 《昨年 91.6%》 教職員 86.7% 《昨年 90.3%》

\* 「視聴覚機器やICTの活用」 生徒 95.1% 《昨年 96.3%》 教職員 93.3% 《昨年 100%》

\* 「多様な選択科目が進路実現に役立っている」 生徒 96.8% 《昨年 96.8%》 保護者 95.4% 《昨年 92.9%》

\* 「家庭学習に向けての工夫」 生徒 76.1% 《昨年 72.7%》 保護者 60.0% 《昨年 61.7%》

### 【人権】

・「一人ひとりが尊重され安心できる集団づくり」「多様性を尊重し異なる考えの人ともコミュニケーションできる力の育成」について、生徒の肯定率がさらに高まるとともに、教職員の肯定率が大きく伸び、それぞれ 100% に達した。本校の根幹をなす「学校開き」「クラス開き」「託す HR」の成果だと言える。引き続き取組をしっかりと根付かせ、違いを認め合える集団育成を進めていきたい。

・「いじめ対応」についても、生徒、保護者、教職員の全てで肯定率が増加傾向にあり、とりわけ教職員において顕著な伸びを示している。いじめを許さないという姿勢を堅持しながら、今後も丁寧に取り組んでいきたい。

- \* 「一人ひとりが尊重され安心できる集団づくり」 生徒 88.4% 《昨年 87.0%》 教職員 100% 《昨年 93.9%》
- \* 「多様性を尊重し違いを認める力の育成」 生徒 94.2% 《昨年 93.8%》 教職員 100% 《昨年 90.9%》
- \* 「いじめなどを見逃さず対応している」 生徒 89.3% 《昨年 87.6%》 教職員 96.7% 《昨年 90.9%》

### 【進路】

・「進路について考えるための必要な情報や機会の提供」「HR や面談での進路指導」「放課後講座や模試」について、生徒の肯定率が増加傾向にあり、教職員でも高水準を維持している。保護者との連携を密に、今後も進路保障に向けた取組の充実を図りたい。

- \* 「進路について必要な情報や機会の提供」 生徒 95.4% 《昨年 95.3%》 保護者 88.0% 《昨年 88.9%》
- \* 「HR や面談で進路について指導している」 生徒 95.7% 《昨年 95.0%》 教職員 90.0% 《昨年 90.6%》
- \* 「放課後講座や模試などに取組んでいる」 生徒 90.4% 《昨年 88.2%》 教職員 83.3% 《昨年 81.3%》

### 【生徒指導】

・「自律心や自立心が育っている」と肯定的に回答した生徒の割合は増加傾向にあり、教職員でも大きく上昇に転じた。様々な取組の中で、生徒の主体性や規範意識をさらに高めていきたい。

・「学校の指導は納得できる」と回答した生徒の割合も増加しているが、保護者は減少に転じている。しっかりと説明責任を果たしながら、信頼関係の強化に努めたい。

- \* 「自律心や自立心が育っている」 生徒 92.5% 《昨年 92.0%》 教職員 73.3% 《昨年 59.4%》
- \* 「学校の指導は納得できる」 生徒 85.8% 《昨年 84.1%》 保護者 82.2% 《昨年 84.7%》

### 【特別活動】

・「部活動」については、生徒の肯定率が上昇傾向にあり、教職員においても著しい伸びを示している。また、「生徒会活動」「学校行事」についても、総じて高い肯定率を維持している。生徒の主体的な活動をよりいっそう支援していきたい。

- \* 「部活動に積極的に取組める」 生徒 90.7% 《昨年 89.3%》 教職員 83.3% 《昨年 78.1%》
- \* 「生徒会活動は自主的に行われている」 生徒 87.5% 《昨年 88.7%》 教職員 90.0% 《昨年 93.9%》
- \* 「学校行事に楽しく参加できる」 生徒 91.6% 《昨年 93.2%》 保護者 91.5% 《昨年 92.7%》

### 【その他】

・「学校情報の発信」についての肯定的な回答は総じて高い水準を示しているが、生徒及び保護者で減少し、教職員は増加に転じる結果となった。今後も情報発信の強化に努めたい。

・「働き方改革」に関する教職員の肯定的回答が減少傾向にある。取組の成果と課題を検証しながら、引き続き業務の効率化を図っていきたい。

- \* 「学校は情報を提供するため努力している」 生徒 85.7% 《昨年 86.6%》 教職員 93.3% 《昨年 90.9%》
- \* 「業務の効率化に努力している」 教職員 80.0% 《昨年 81.3%》